

萩の世界遺産 — 現況と課題 —

平成 27 年（2015 年）7 月、世界遺産（文化遺産）に登録された「明治日本の産業革命遺産」は 8 県 11 市の広域に点在する 23 資産で構成されている。

萩の産業革命遺産は、

- ・萩反射炉
- ・恵美須ヶ鼻造船所跡
- ・大板山たたら製鉄遺跡
- ・萩城下町
- ・松下村塾

の 5 遺産が登録された。

明治日本の産業革命遺産は、幕末の試行錯誤の時期（1850～1860）、明治初期の西洋科学技術の導入期（1860～1890）、明治後期の産業基盤の確立期（1890～1910）の大きく 3 期に分けられ、萩の遺産は幕末時期の遺産である。

萩市の資料によれば、来訪者は、登録年度は増加したが、最近では減少傾向にあるという。

例えば大板山遺跡は、登録初年度は年間約 16,500 人の来訪者があったが、次年度は約 9,000 人、最近では 1 日 20 人未満まで減少しているという。

減少の要因は、遺産自体が感性に訴えるインパクトが貧しいことである。

日本の文明開化は西洋からの圧力に対応するためにやらざるを得なかった外発的な結果で、萩の遺産群は試行錯誤を重ねた典型例である。

例えば、鉄製大砲の鑄造を目指して反射炉を試作するも鑄造に失敗、軍艦の建造にも挑戦するが、西洋式蒸気船の建造はできなかった。

姫路城や法隆寺は、それ自体が持つ美しさや荘

広報委員

堀 哲二

厳さが存在し、人々の感性に直接的に働きかけてくる迫力を感じるが、萩の遺産にそれを期待することは難しい。

さらに、遺産の構成要件にも問題がある。関係者に伺うと、「西洋の近代的思想や技術を取り入れながら、日本の伝統的思想や技術との葛藤を繰り返し飛躍的な発展を遂げ現代日本の礎となった遺産群であり、東北から九州までの一連の遺跡の流れを通して、初めて遺産としての全体的価値が理解できる」と解説されたが素直には理解し難い遺産群である。

現在、全世界で 1,000 件以上の世界遺産登録があり、さらに世界の記憶遺産や日本遺産等の登録が年々増加し続けたため、価値の相対的な低下も指摘されている。

日本国を世界に誇りたいという気持ちは理解できるが、日本の誇りと世界遺産は別である。

構成資産をどう選び、普遍的価値をどのように論理づけるのか、今後のあり方に課題を残している。

本年は明治維新 150 年目の節目の年である。維新の象徴的な場所である萩では世界遺産関係の事業が予定されている。ところが地元では、その効果につき疑問視する声も多い。あまりにも身近な遺産であり、その客観的な価値が正当に把握できないからであろう。地域意識の改革も必要である。

遺産登録できたことは、地域活性化へのよい機会である。遺産を後世に確実に継承していくには今後どう対応すればよいのか。行政側へ課せられた難しい宿題である。